

平成29年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園
さつき台幼稚園

当園ではこの度、平成29年度のさつき台幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園是「あかるく・すなおに・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *教育、保育活動を充実させる
- *教職員の協力や連携体制を強化する

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	教育目標が反映されるよう保育目標を定め、園の方針や目標について、保護者の理解を得るよう取り組んでいる。	A	・毎月、学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを「学年だより」に載せて、保護者の方にお伝えしている。 ・今後も、子どもの様子やクラス全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させ、園と保護者との相互理解を深めていけるよう検討する。
2	教育課程の編成	教育目標である「明るく素直に健やかに」が日々の教育活動に反映されるよう、それらに各領域に示すねらいや内容を結びつけて教育課程を編成し	B	・教育目標を達成するため、領域「人間関係」の内容である「他の人々と親しみ支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養う」ということに重点を置いている。 ・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。

		ていく。		
3	指導計画の作成と評価	指導計画は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しを行い、評価・反省をして次の保育に生かしていく	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画案を作成するときには、教職員間で話し合い子どもの実態や環境にあっているかどうかを検討している。 ・今後さらに、子どもの発達に応じて子ども自らが経験できる活動と保育者の援助が必要な活動、この両方のバランスを考えて配分しねらいと内容を立てていく。
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館を利用し、沢山の絵本に触れ、自分で選んだ本を大切にしている。 ・身近な動植物に親しみをもって接し、思いやりの気持ちが持てるよう配慮する。 ・その日の計画、具体的な内容をイラストなどいれながらわかりやすく掲示し、いろいろな活動に興味を持って取り組めると共に予測をたてて行動できるよう促している。 ・異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。 ・今後も子どもの視点に立ち、関心を持っていることや苦労していることなど子どもの取り組み方や心の動きをよく観察し環境を構成していくようにする。
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの気持ちをこまやかに受け止め、温かな言葉をかけながら安心できる雰囲気づくりを心がける。 ・子どもの主張をしっかりと受け止め、何を主張したいのかを相手に伝え、子どもの手助けをすることで、子ども自身が解決していく力を援助していく。 ・できたことを認めたり、褒めたりして次の行動への自信につなげられるような言葉がけをしていく。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のことについて、教師間での話し合いを密に行い、情報共有に努めている。 ・その場で配慮が必要な時には、近くにいる教師がこどもに思いやりの気持ちと言葉がけをしていく。 ・保育に関して、教師間でお互いに相談し合い、幼児にとって楽しい保育ができるように取組んでいる。 ・食物アレルギーやひきつけ、脱臼など体質や健康面で配慮が必要な子どもについて職員間で共通理解を図っている。
7	研修・研究への	配慮が必要な幼児に	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などに

	取組み	対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。		<p>ついて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて専門機関に相談し、保護者と密に連携をとるようにしている。
8	安全衛生への配慮	トイレの清掃やトイレの正しい使い方、手洗いの仕方を具体的に示している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに空気清浄、加湿器を設置している。 ・歯の健康やうがい、手洗い、水分補給の大切さを絵本や紙芝居、保育者の話を通して具体的に知らせるようにする。手洗いについては講習を受け、歌にのせて楽しく手洗いができるように取り組んでいる。 ・玄関に消毒液を設置し、ウイルスを持ち込まないように取り組んでいる。
9	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解し合うと共に、保護者の方にも配布し共通理解を持てるように取り組んでいる。 ・交通安全の習慣を身につけるようにすると共に災害などの緊急時に適切な行動が取れるようになるための訓練などを行っている。 ・感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
10	安全管理体制の整備	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の掃除をする中で、危険なところを意識して確認するようにしている。 ・遊具の下に安全マットを敷き、鉄棒、ジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。 ・今後は、定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ、防犯ベルを設置し、門を施錠するなどし、防犯体制を整えている。 ・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
12	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的な対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。 ・日々の電話連絡や、また連絡帳を活用して、保護者の方と連携がとれる様にしている。 ・行事のねらいや子どもの取り組みの様子を伝え当日の結果だけでなく、こどもが頑張ってきたことを、家庭で

				<p>認めてもらえるようにする。</p> <p>・地域の子育て家庭に園庭開放の日程を知らせたり、子育ての情報を提供したりしている。</p>
--	--	--	--	---

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また、地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているかなど、教職員間で話し合い見直しを行う。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを共有し合う。
3		研修に積極的に参加し、知識などを学ぶとともに、教師間で情報共有し、現場で実践できるように取り組む。
4	保育環境の充実	子どものさまざまな思いやイメージがしやすい物や材料などのさらなる充実を検討していく。
5		園児たちのたての繋がりを大切にし、年齢による関わり方を楽しめるような活動など、工夫した取り組みを充実させていく。
6	保護者との連携の強化	ご家庭におけるお子様とのかかわり方や様子などを把握について充実させ、子どもたちの理解を深めていく。
7	防災対策の強化	避難訓練を実施することで、全員で避難経路や手順を確認しあい、スムーズに実施できるようにする。今後は、予期される地震発生を想定した訓練に取り組む。
8	安全管理体制の強化	感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9		定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
10		専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。

V. 学校関係者の評価

一斉保育が主体となって指導計画が立てられていますが、これからは子ども達が自分で考え創り出し、保育者が伸ばしていけるような活動を取り入れて欲しいと思います。

その為に日頃から子ども達の気持ちによりそい、どんなことに興味を持っているのかを把握する必要があります。又、子ども達が喜んで登園し安心して過ごせるよう暖かく見守る体制をこれからも持てるよう努めていきたいと思っています。